



Close up 1

アメリカ・イーグルポイントと オンラインでつながろう📶

昭和中学校(登坂一彦校長)で8月6日にオンライン交流会が行われ、出席した3年生12人が、アメリカ合衆国オレゴン州イーグルポイント市の生徒たち8人と、タブレット端末を介してオンラインで交流しました。

ホームステイは中止に

村とイーグルポイント市は、平成10年から海外交流事業を開始しました。以来、例年は昭和中学校3年生の希望者12人ほどが渡米し、同市でホームステイをしています。過去には、同市の生徒たちが来日し昭和中学校で交流したこともあります。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年に引き続き今年も海外交流事業が中止になったことから、今回初めてとなるオンライン交流会が企画、開催されました。

リモートで国境越え対面

日頃からの体調管理と感染症対策を行い、当日参加した3年生12人は、G I G A

スクール構想で1人1台貸与されているタブレット端末を使用して、イーグルポイント市の高校生8人とそれぞれリモートで接続。国境を越えて画面越しに対面しました。

会話が弾んだ交流

英語であいさつし、会話が始まった当初は緊張した面持ちだった生徒たち。それでも、スポーツや日本の人気漫画といった話題をきっかけとして、お互いに質問したり、それに答えたりしているうちに徐々に打ち解け、会話が弾んでいきました。

また、浴衣を着て日本文化を紹介する生徒や、家族写真を見せながら自己紹介する生徒たちもあり、教室は国際交流の雰囲気を感じられました。

画面を通じて対面

近くに感じられた交流会

タブレット端末を使ってアメリカ合衆国イーグルポイント市の高校生とリモート接続。日本の文化や家族の話題などをきっかけに会話が弾み、実際の距離にもかかわらず、お互いの距離がどんどん縮まっているようでした。生徒たちが積極的に話しかけていたことも印象的で、自信がついたのではないのでしょうか。



英語での交流に手応え もっと勉強したい

参加した青木愛佳^{あい か}さんは「最初は緊張したものの、単語だけでも伝わるし、お互いスポーツが好きで、私は部活動で打ち込んだバレーボールを、相手はバスケットボールの話をして盛り上がり楽しかった」と交流に手応えを感じていました。

高橋祭君^{まつり}は「交流は新鮮な体験だった。私たちにとってわかりやすく発音してくれる英語の授業とは異なり、生の英語は難しかったのでもっと勉強したい」と今後の抱負を話していました。

前ページ写真 浴衣を着て日本文化を紹介したり、写真を見せて家族を紹介。 **1**タブレット端末越しに対面。 **2**アメリカでも知られている日本の人気漫画を紹介。 **3**次第に打ち解けて会話も弾む。 **4**相手の話真剣に耳を傾ける。 **5**オンライン交流会に参加した生徒たち。交流会を終えたあとの充実した笑顔が印象的。 **6**交流会はALTのジェフ先生や英語担当の先生方がサポート。和やかな雰囲気で行われた。